

令和5年産 コメ通信

第9号（令和5年8月21日）

【発行】

北秋田地域振興局農林部農業振興普及課
（電話：0186-62-1835）

ほ場をよく観察し適期に刈り取りを！

1 気象経過と生育状況

【気象経過】

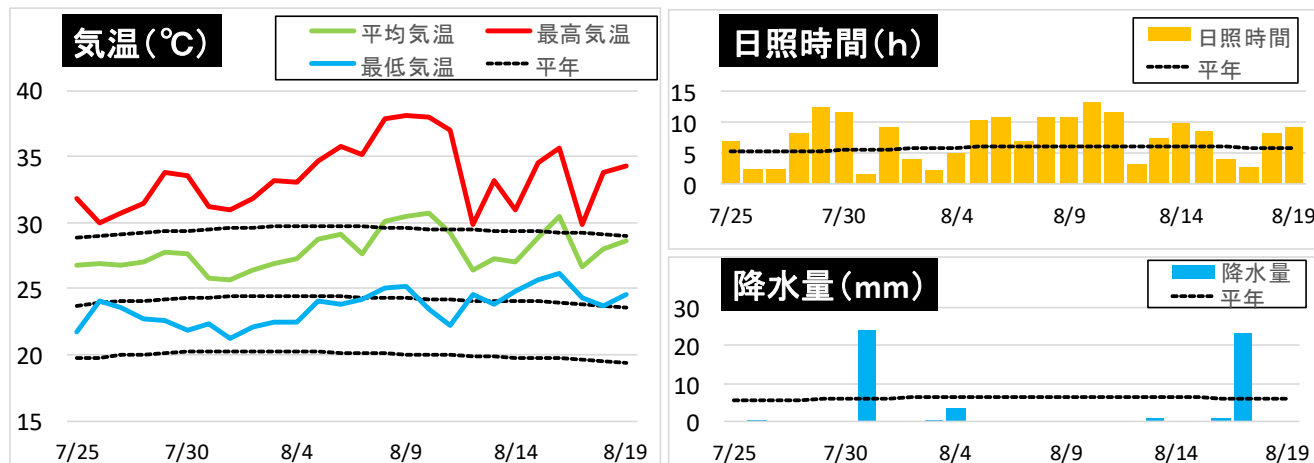


図1 気象経過図（アメダス鷹巣）

- 7月6半旬以降の気温は平年よりかなり高く、30℃を超える日が続きました（図1）。
- 日照時間は多く、降水量はやや少なくなりました。
- 仙台管区气象台による1か月予報（8月17日発表）では、向こう1か月の東北地方日本海側の天気は、気温が高く、降水量と日照時間はほぼ平年並となっています。特に、期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。

【生育状況】

- 8月18日現在の生育（あきたこまち：9地点平均）を平年と比べると、一穂あたりの着粒数はほぼ平年並となりました。しかし穂数が少なかったため、 m^2 あたりの着粒数は少なくなりました（表1）。
- 定点調査ほの出穂期は7月28日（平年差－3日）、管内全体の出穂期は8月1日（平年差－3日）となりました。

表1 定点調査結果（8月18日）

	穂数 (本/ m^2)	葉数 (葉)	着粒数		出穂期
			(粒/穂)	(粒/ m^2)	
本年	425	12.8	69.5	29,499	7/28
平年	462	12.9	71.5	32,875	7/31
前年	403	13.0	81.2	32,534	7/31
平年比	92%	－0.1	97%	90%	－3日
前年比	105%	－0.2	86%	91%	－3日

※平年は過去10か年の平均値を示す。

2 今後の水管理

- 登熟の向上を図るため、出穂30日後までは間断かん水を実施し、土壤水分を保持しながら稲体の活力を維持することが重要です。特に、開花後25日間は米粒が肥大するため、土壤水分が不足しないように注意します。
- 浸水・冠水した稲体は、水分調節等の機能が低下しているため、田面の過度な乾燥に注意してください。
- 落水時期は、出穂30日後頃を目安とし、稲の登熟度やほ場の作業性等を考慮してください。1か月予報によると、向こう1か月の気温はかなり高いと予想されているため、玄米へのデンプン転流が低下し、白未熟粒の発生による品質低下が懸念されます。玄米の充実を図るため、可能な限り落水時期を遅らせて、稲体活力の維持を図ってください。
- ★カドミウム含有米の発生が懸念される地域では、出穂期3週間後まで湛水管理を厳守し、カドミウムの吸収を抑制してください。

3 病虫害防除対策

【いもち病防除】

- 病虫害防除所から7月18日に防除対策情報が発表され、管内でも葉いもちや穂いもちの発生が散見されています。葉いもちが多発しているほ場では、出穂後25日頃までにフサライド剤（ブラシン剤、ラブサイド剤等）により防除を行ってください。
- 使用回数はブラシン剤が2回以内、ラブサイド剤が3回以内、使用時期はどちらも収穫7日前までとなっています。

【斑点米カメムシ類防除】

- 病虫害防除所から7月28日に防除対策情報が発表されています。出穂期24日後頃に茎葉散布剤のキラップ剤（収穫14日前まで）またはエクシード剤（同7日前まで）を畦畔を含めて散布し、防除対策を徹底してください。※収穫2週間前までは草刈りをしないでください。
- 飼料用米でも、2回目の防除を行ってください。

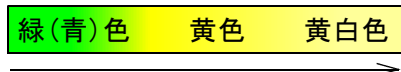
4 刈取適期の判定

- 刈取適期は、品種や栽培方法によって異なります。本年は出穂期が早く、出穂後も気温が高く日照時間の多い日が続いているため、刈取時期が早まる見込みです。ほ場をよく観察し、総合的に判断して、刈取適期を逃さないよう注意してください。

【刈取適期の判定基準】

① 籾の熟色（図2）

葉や穂首が緑色であっても籾の黄化程度（黄色＋黄白色）が90%の頃



② 出穂後の日数

早生種（あきたこまち 等）：出穂後45日頃
中晩生種（めんこいな 等）：出穂後50日頃

③ 出穂後の積算気温

※出穂期翌日から日平均気温を積算した値（表2）
早生種：950～1,050℃
中晩生種：1,050～1,150℃

図2 熟色の進展

表2 積算気温到達日予想

出穂期	950℃(平年)	1,050℃(平年)
7/25	8/30 (9/4)	9/4 (9/8)
7/30	9/6 (9/9)	9/10 (9/14)
8/5	9/13 (9/17)	9/19 (9/22)
8/10	9/21 (9/24)	9/27 (9/30)

※8月21日以降は平年値で計算した。

問い合わせはJ Aまたは農業振興普及課まで ～次回発行は9月下旬頃～